

国内グループ会社

オプテス

会社紹介

オプテスは、日本ゼオンの製造受託会社として、日本ゼオンが独自に開発した ZEONEX[®](ゼオネックス)、ZEONOR[®](ゼオノア)という透明なプラスチックを原材料にして、主に光学フィルム・小型成形品等の光学用途を主体とした製品の成形加工を行っている会社です。

富山県と栃木県に生産拠点を構えており、北陸工場では液晶ディスプレイ用途のフィルム製造、佐野工場では医療用検査セルの提供を通じて省エネルギーを推進しています。“人のまねをしない、人がまねのできない”独創的かつ革新的な技術で、地球に優しい独創的製品を広く世界に提供し、地球環境との共生に取り組んでいます。



植田 恒久社長



オプテス北陸工場
(高岡製造所)



オプテス北陸工場
(高岡製造所)



オプテス北陸工場
(氷見製造所)



オプテス北陸工場
(敦賀製造所)

環境安全活動

1. 環境安全への取り組み

2013 年度は「安全をすべての中心に現場力と発見力でオプテスを進化させよう！」をオプテス方針として、無事故・無災害・品質向上を目標に取り組みを進めてきました。安全基本活動であるヒヤリハット活動^{※1}は、対策実施率の向上を工場指標として活動を展開しました。製造機器に対するリスク評価では「リスク極小化装置」を目指した中期計画を策定し、安全な機器づくりに向け継続した取り組みを展開しています。

また、危険に気づく機器づくり・人づくりとして、公開作業観察^{※2}による手順等の改善、“安全体感装置”の導入や安全体感道場開設による教育等を通じ、全員で危険を体感する中で、より安全な操業ができる体制を構築してきています。

※1 ヒヤリハット活動

ヒヤリハットとは、ヒヤリとしたり、ハッとしたりするなど、事故になりそうだった事柄のこと

※2 公開作業観察

作業手順書から作業を選出して実際に作業を行い、観察者（工場長・部署長・職制および作業員）が手順書どおり作業ができているか、安全に作業ができているか等、作業内容や手順書を点検し改善するとともに、手順書を順守して作業することの重要性を再認識させる活動

2. 環境関連データ

(株)オプテス 佐野工場		2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
PRTR 法対象物質	対象物質数	1	1	1	1	1
	使用量(トン)	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	排出量(トン)	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
産業廃棄物	減容前発生量(トン)	11	7.2	5.9	7.0	9.6
	埋立処分量(トン)	11	0.7	0.0	0.0	0.6
水資源(工業用水+地下水+上水道)使用量(千 m ³)		4	4	4	5	6
CO ₂ 排出量(トン)		1,711	1,015	1,105	919	989
エネルギー使用量(原油換算、kL)		981	611	664	625	674

(株)オプテス 北陸工場		2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
PRTR 法対象物質	対象物質数	0	0	0	0	1
	使用量(トン)	0	0	0	0	1.225
	排出量(トン)	0	0	0	0	0.006
産業廃棄物	減容前発生量(トン)	462	419	707	849	1,377
	埋立処分量(トン)	0.8	1.5	0.0	0.0	0.0
水資源(工業用水+地下水+上水道)使用量(千 m ³)		40	50	31	29	29
CO ₂ 排出量(トン)		19,604	13,159	8,499	9,622	27,483
エネルギー使用量(原油換算、kL)		10,058	10,501	9,390	10,313	12,549

地域との共生活動

当社では年間を通じて、地域との積極的な関わりを持っています。地域美化活動として、毎月、氷見市上田子地区の方々と清掃活動を行っています。春・秋は工場周辺地域のゴミゼロ(530)クサゼロ(930)活動、夏は海岸清掃を行っています。また、富山県内の高等学校の工場見学を2校受け入れ、高校生の社会見学に協力しています。参加された高校生からは「最先端の技術で作られた製品を富山県で製造していることは、とても誇りに思います」とのコメントももらいました。さらに高等学校が行うインターンシップを1校受け入れ、社会体験としての工場就業体験を実施し大変好評です。例年、就業体験をした生徒がオプテスに就職するなど効果を上げています。



上田子地区でのゴミ拾い



Z01 上市記念 氷見稲積梅植樹式



工芸高校工場見学
(3Dテレビ視聴体験)